

**苦悩は すべての人 共有のもの
苦悩があるから 人は成長できる
プラス思考か マイナス思考かで
人の生き方に 違いが生まれる**

この世の中で、苦しみ悩みのない人がいたとすれば、それは神か仏か化物の何れかである。

人には、長所があれば短所が必ずある。良いところがあれば悪いところもある。

完全無欠は、味もそっけもない。おもしろいところもおかしいところもない無味乾燥な存在だ。

中学、高校時代、勉強がもっとできるようになりたい、運動ももっとできるようになりたいと思いながら、それ相応の努力をしない自分の弱さに悩んだ。

成人し、社会人になってからも、似たようなことで思い悩んだ。このような経験は、他のどんな人も持ちながら成長してきたものと思われる。苦悩の大きさは人によって異なるのではあるが・・・・・・・・

特に、異性に対して興味関心が強くなった時期は、悩みが心に重くのしかかってきた。自分の内側で、心と心の戦いが毎日のように行なわれ、悶々とした日々を送った。

異性を好きになることは正常なことで、失恋することも人生の中では大切な経験である。精神的な打撃が大きいので、それを乗り越えると強い気持ちが生まれてくる。

社会人になり、職業人になれば、その立場での悩みや苦しみが、またある。仕事について、そして、人間関係についての悩みは避けられない。あるのが当たり前だ。

このようなときに、「苦悩があるのが当たり前」と考えられるか、「自分だけ、何故、悩まなければならないのか」と感じ考えるかの違いで、人の生き方や解決改善の方向性が決まる。周囲に対する影響も違う。

言い換えると、プラス思考であるかマイナス思考であるかで、その人の人生観に違いが生じる。積極的であるか消極的であるかで、外向的になるか内向的になるかの違いが生まれる。

自分を変えられるのは、自分の心の持ち方次第である。周りの人が出来ることは、支援・援助だけだ。問題の解決は自分にしかできない。

